



令和 5 年度 教育委員会事務点検・評価報告書

はじめに	1
1 教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員会定例会	2
(2) 総合教育会議	5
(3) その他	5
2 教育委員会における事務の管理・執行状況	
(1) 学校教育	6
(2) 生涯学習	9
(3) 芸術文化の振興と文化財保護	10
(4) 生涯スポーツ	10
3 外部委員評価	11

2024 年 5 月

井川町教育委員会

はじめに

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会においては、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが定められました。

本報告書は、第 26 条の規定に基づき、本町教育行政の充実発展を目指すとともに町民への説明責任を果たすため、達成度を評価したものです。

第二十六条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委託された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

□ 評価スケジュール

- 2 月 教育委員及び事務担当の自己評価
- 3 月 評価結果のまとめ及び教育委員会定例会で評価を議決
- 4 月 外部評価委員へ評価の依頼
- 6 月 評価結果を 6 月議会に提出
- 7 月 評価結果の公表（井川町ホームページ）

□ 対象事業

- ・教育委員会が直接関与している事業或いは活動している事業を「教育委員会の活動状況」とします。
- ・教育委員会が管理・執行している事務事業や教育長に委任している事務を「教育委員会における事務の管理・執行状況」とします。

□ 点検評価基準

A	達成している ねらいに沿った具体的成果が表れている
B	おおむね達成している 具体的な成果が表れているが改善の余地がある
C	達成していない 事業の見直しを含めた検討が必要である

□ 外部評価委員について

点検・評価内容の客観性を確保するため、教育に関して学識を有する外部委員に意見と総評をいただきます。外部委員には、令和 5 年教育委員会 4 月定例会で幡宮明貞氏（八幡）を議決し、評価をいただきました。

1 教育委員会の活動状況
 (1) 教育委員会定例会

月	開催日	審議内容
4 月定例会	4 月 25 日 (火)	【教委・学校連絡会】 ・井川義務教育学校授業視察及び学校管理職との意見交換 ・学校給食の試食 【議決事項】 (第 16 号) 井川町立井川義務教育学校管理規則の一部を改正する規則について (第 17 号) 令和 5 年度就学援助児童生徒について (追加) 【協議案件】 ・公設塾の視察について 【報告事項】 ・井川町教育委員会事務点検・評価報告書に係る外部評価について ・東北町村教育長研究大会事例発表内容について ・廃棄本、雑誌頒布会について ・2022 年度教職員多忙化防止計画の取組結果について ・教育委員会・公民館・学校関係行事予定 (5 月分)
5 月定例会	5 月 30 日 (火)	【議決事項】 (第 18 号) 令和 5 年度就学援助児童生徒の認定について 【協議事項】 ・教職員研修会のあり方について ・歴史民俗資料館のあり方について 【報告事項】 ・教育委員会事務点検・評価に係る外部評価委員について ・東北町村教育長研究大会、全国教育長研究大会について ・第 1 回学校応援協議会について ・町民体育大会について ・修学旅行事前視察について ・第 3 回井川夕学の会について ・公設塾視察研修について ・町教委、公民館、学校関係行事予定 (6 月分)
6 月定例会	6 月 27 日 (火)	【協議事項】 ・井川町公民館図書室・学校図書館資料廃棄・保存基準 (案) について 【報告事項】 ・中央地区総体結果について ・第 2 回部活動地域移行協議会について ・町民体育大会結果について ・台湾視察日程について ・公設塾視察研修について ・第 2 回教職員研修会について ・町教委、学校、公民館関係行事予定 (7 月分)

7 月定例会	7 月 24 日（月）	【議決事項】 （第 19 号）井川町教育委員会職員の異動について （第 20 号）井川町教育委員会公印取扱規則の一部を改正する規則について （第 21 号）令和 6 年度小学校教科用図書採択について 【報告事項】 ・台湾視察について ・全県中学校総体等の結果について ・7 月 14 日からの大雨災害による被害状況について ・授業改善の状況について ・令和 5 年度教職員初任者研修会の開催について ・町教委、公民館、学校関係行事（8 月分）
8 月定例会	8 月 29 日（火）	【報告事項】 ・全国学力学習状況調査結果（概要）について ・公設塾視察報告について ・男鹿潟上南秋地区小学校教科用図書採択結果について ・部活動地域移行の進捗状況について ・吹奏楽県大会、柔道東北大会の結果について ・町教委、公民館、学校関係行事予定（9 月分） 【教委・学校連絡会】 ・井川義務教育学校授業視察及び学校管理職との意見交換
9 月定例会	9 月 26 日（火）	【報告事項】 ・井川町教育員会委員の任命について（遠藤勇人委員） ・令和 5 年第 3 回井川町議会定例会（9 月定例議会）について ・茨城県守谷市教育改革発表会について ・第 10 回秋田 25 市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！について ・第 4 回いかわ夕学の会について ・全県市町村教育委員会教育長会議提出資料について ・中学校地区秋季大会結果について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定（10 月分） 【協議事項】 ・学力向上策について
10 月定例会	10 月 30 日（月）	【議決事項】 ・（第 22 号）令和 5 年度就学援助児童生徒の認定について（追加） 【報告事項】 ・人事案件について ・秋田県町村教育長会研究会について ・いかわりサイクルBOOKフェアについて ・町民とともに学ぶふるさと講座について ・クマ出没に係る対応について ・台湾修学旅行安全確認の会について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定（11 月分） 【協議事項】 ・公設塾開設について

月	開催日	審議内容
10 月定例会	10 月 30 日（月）	【議決事項】 ・（第 22 号）令和 5 年度就学援助児童生徒の認定について（追加） 【報告事項】 ・ 人事案件について ・ 秋田県町村教育長会研究会について ・ いかわりサイクルBOOKフェアについて ・ 町民とともに学ぶふるさと講座について ・ クマ出没に係る対応について ・ 台湾修学旅行安全確認の会について ・ 教育委員会、公民館、学校関係行事予定（11 月分） 【協議事項】 ・ 公設塾開設について
11 月定例会	11 月 27 日（月）	【報告事項】 ・ 全県市町村教育委員会教育長会議について ・ 全県中学校秋季大会の結果について ・ 教育委員会、公民館、学校関係行事予定（12 月分） 【協議事項】 ・ 令和 6 年度教職員定期人事異動方針について ・ 公設塾の開設について ・ 井川町総合教育会議について
12 月定例会	12 月 18 日（月）	【報告事項】 ・ 12 月定例議会について ・ 学校生徒の進路状況について ・ 学校部活動の入部状況について ・ 学校保護者アンケート結果について ・ 教職員多忙化防止の進捗状況について ・ 第 2 回教職員研修会について ・ 不登校の状況とケース会議について ・ 学習塾に係るアンケート結果について ・ 教育委員会、公民館、学校関係行事予定（1 月分）
1 月定例会	1 月 30 日（火）	【教委・学校連絡会】 ・ 井川義務教育学校授業視察及び学校管理職との意見交換 【報告事項】 ・ 学校教職員人事について ・ 秋田県学習状況調査結果について ・ 不登校児童生徒に現況について ・ 令和 6 年度台湾修学旅行に向けた準備について ・ 令和 6 年度就学援助費の額改定について ・ 9 年生の進路状況について ・ アンサンブルコンテスト秋田県大会結果について ・ 教育委員会、公民館、学校関係行事予定（2 月分）

月	開催日	審議内容
2月定例会	2月26日（月）	【議決事項】 （第1号）令和6年度教職員の異動に係る内申について （第2号）義務教育学校卒業式告辞について 【協議事項】 ・令和5年度教育委員会事務点検・評価報告書について 【報告事項】 ・井川町歴史民俗資料館の在り方について（答申） ・教職員多忙化防止の進捗状況について ・令和5年度全国体力調査結果について ・教育委員会、公民館、学校関係行事予定（3月分）
3月定例会	3月25日（月）	【議決事項】 （第3号）令和6年度井川町教育委員会職員の異動に係る内申について （第4号）井川義務教育学校入学式告辞について （第5号）井川町教育委員会事務点検・評価について （第6号）令和6年度就学援助児童生徒の認定について （第7号）令和6年度井川町教育方針について 【報告事項】 ・令和6年第1回井川町議会定例会について ・井川義務教育学校の進路先最終報告について ・学校医、学校歯科医および薬剤師の委嘱について ・井川町教育委員会公告式規則による掲示板の掲示期間に関する要綱の制定について ・井川町地域学校協働活動推進員設置要綱の制定について ・学校応援協議会における学校評価について ・教育委員会・公民館・学校関係行事予定について

（2）井川町総合教育会議

開催日	案件
12月18日（月）	・意見交換 ※ 井川町公設塾開設等について意見交換した。 ・その他

（3）その他

- ・公設塾視察（7月28日～29日、宮城県大衡村、山形県大蔵村）
- ・義務教育学校授業参観（4月25日、8月29日、1月30日）
- ・井川町教職員研修会（第1回4月4日、初任者8月8日、第2回1月11日）
- ・諸行事参観（入学式、運動会、学校祭、卒業式）

2 教育委員会における事務の管理・執行状況

(1) 学校教育

理念	重点	到達目標と結果（○×）	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとづくり	学力の 向上	×対話や討論のある授業が展開されている。 ※対話はよく行われているが、討論については中期や後期でそのレベルまで達していないことが多い。 ×授業がよくわかる。（全校平均3.4以上） ※全校平均が3.3と目標を下回った。 ×学力調査が県平均を上回る。 ※12月調査で、全体で県平均を0.9ポイント下回った	《職員研修への外部講師派遣》 今年度は外部講師による職員研修は行わず、教育長・教育委員会事務局職員による研修を行った。 《「武埴三山」「洲崎遺跡」副読本の活用》 「武埴三山」副読本は、6年生に配布した（R4年度6～9年生に配布済）。6～9年生で副読本を活用した授業を行っている。 「洲崎遺跡」副読本は、7年生に配布した（R4年度7～9年生に配布済）。7年生では副読本を活用したフィールドワークを行った。 《学校外での公設塾等の検討》 7月28日～29日に、教育長、教育委員3名、事務局1名の5名で、宮城県大衡村・山形県大蔵村で行っている公設塾の視察研修を行った。また4年生～9年生の保護者160人を対象に「学習塾などの利用調査」を行った。公設塾に「通わせたい、できれば通わせたい」が78%の結果であり、公設塾への期待が伺われた。 《4年生以上への新聞配布とNIEへの取り組み》 学習委員会において新聞記事を活用した学習に取り組むため、子ども達が日頃から新聞を意識するように位置を工夫したり、新聞を読む時間を確保したりと環境作りに努めた。 《図書カードの贈呈や学校図書館図書費の充実》 例年同様、夏休み中の読書活動充実のため、213名の児童生徒に図書カードを配布した。また、夏休み明けには配布した図書カードの使用状況を把握するためにアンケート調査を行った。 《学力テスト等の分析による授業改善への援助》 県学習状況調査・全国学力状況調査について、学級全体・1人人の学習状況について全教科にわたり統計学的分析をして学校に提供している。 《教育委員会による学校訪問と指導助言》 教育委員による学校訪問・授業視察は3回行われ、教育委員会・学校連絡会議等において助言を行った。	B

理念	重点	到達目標と結果（○×）	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとづくり	社会性の伸長	× 社会的事象や出来事への関心が高くなる。 ※県学習状況調査で、「社会をよくするために何かしてみたいとおもうか」という質問にしてみたいと答えた児童生徒は46.4%で、昨年を9P下回った。 ○ 他学年と協力したり仲良くするなどの関係が強くなる。 ※社会性測定調査では4点法で3.6となっており、高水準を維持した。	《電車でGO&買い物物体験会・空港とアスレチック体験会の実施》 1年生から3年生までの児童38名が参加の「電車買い物体験」では秋田駅で新幹線こまちを見送ったり秋田市民市場で買い物を体験したりした。4年生から6年生までの34名が参加した「空港とアスレチック体験」では秋田空港滑走路の見学や県立中央公園のアスレチック体験を行い、学年を超えた交流活動を行った。 《海外修学旅行の研究・視察》 7月に町職員等4名と教員2名が参加して台湾視察を行い、コロナ対応、観光地の状況や食事、交通、宿舎等実際の修学旅行を念頭に置き確認した。後日参加した教員が8年PTA授業参観において、台湾事前視察を基に国際理解に関する授業を行った。 令和6年度台湾修学旅行対象の8年生では、台湾へ留学予定の国際教養大学生と、現在仙北市役所に勤務している台湾出身の国際交流員との交流を行い、国際理解を深めた。 《井川みらい学への外部講師招聘》 今年度は外部講師による職員研修は行わなかった。 《社会性測定尺度による社会性調査の実施》 1月に調査を実施し、結果は学校に返却している。調査は2019年から行っており5年間の経年変化からの検証も行い学校に報告した。 《いかわ夕学の会》 7月に秋田県立大学副学長の高橋秀晴教授による講演、10月には世界的ヴァイオリニストの八嶋夫妻によるヴァイオリンコンサートを開催した。 《ふるさと講座》 井川町出身で社会のさまざまな分野で活躍されている方々からメッセージをいただく「ふるさと講座」では、早稲田大学本庄高等学院の半田亨学院長よる講演を行った。	B
	温かな心・健康な体	○ 生命尊重や思いやりに関する意識が高まる。 ※社会性測定調査で「みんなが仲良くなれるよう働きかけることができる」では4点法で3.3と高水準を維持した。 × 生活習慣改善や運動する意欲が向上する。 ※検診研究チームによる塩分接種調査で、尿検査の同意率が50%と昨年を22ポイント下回った。	《いきものふるさと水槽事業への支援》 はちろうプロジェクトや大学機関と連携して、水槽に水草を植えたり水質調査を行うことにより、川の生物や水質に関心をもつきっかけづくりをした。 《町健康教育副読本の活用への支援》 今年で5年目の実施となる全児童生徒と保護者に向けた尿検査とアンケート調査では、昨年度と塩の量を比較したり、保護者と一緒に家庭での食生活を振り返りをしてもらえるように結果表を返却している。 また、健康副読本を使って学習を始める4年生に向けて、大阪大学、近畿大学、同志社大学の先生が授業を行った。クイズを授業に取り入れながら、町の健康への取組と塩分について学んだ。 《教育支援委員会によるこども・保護者への支援》 特別な支援を必要とする児童生徒や保護者について地域・学校・教育委員会等が一緒になって情報共有やどんなサポートが必要なのかなどを協議し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行った。 《不登校等のケース会議の開催》 不登校等のケース会議は2回開催し、ケース報告に対しスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、民生児童委員等から助言をいただき不登校の対応を進めている。 《職員対象のストレスチェックの実施》 全教職員を対象に年2回実施した。自分自身のストレスの状態の把握や自身のセルフケアに役立てるため実施した。	B

理念	重点	到達目標と結果（○×）	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとづくり	地域とともにある充実した学校	○ 学校応援協議会の提言に対応している。 ※ 複数担任制の継続や縦割り活動の推進など12件の提言があり、6件に対応してきた。 × 学校給食の町内産野菜使用率が向上する。 ※ 今年度の使用率は48ポイントとなっており、昨年よりも4ポイント低下した。	《学校応援協議会の運営と充実》 3回の協議会を行い、授業参観や県生涯学習課職員を講師にした研修会などを行い充実した協議会となった。全部で12の提言のうち、6つについては具体的に対応したり、しようとしていたりしている。 《井川みらい学の新プログラムへの支援》 洲崎遺跡副読本を活用したフィールドワークを7年生で行った。 台湾出身の仙北市役所職員を学校に招き、来年度の修学旅行先である台湾について学び、国際理解を深めた。 《幼小接続連絡会議による接続プログラムの検討と研修》 令和3年度から引き続き児童の交流だけでなく、こどもセンターと学校の教職員同士がお互いを訪問することにより、連携の強化を図った。 《通学路の安全確保とスクールバスの安全な運行》 井川町通学路安全推進会議を開催し、通学路の危険箇所や改善箇所の確認を行った。また、クマ出没増加に伴う対応の流れにつて各関係機関と確認し共有した。 《給食無償化と並行した食育推進への支援》 今年度より子育て世帯への支援拡充のため、義務教育学校における給食の無償化を行った。 産直生産グループの代表者との打ち合わせを毎月行い、これまでと同様に井川産の野菜や果物を献立に多く取り入れて給食を提供し、おたよりや掲示板、放送等で食材について紹介している。	B
課題と今後の方向			教師と子どもの関係が良好で安定した授業が多く、子どもたちが諸活動に陰ひなたなく取り組むなど義務教育学校としての特色を生かした長所がある一方、学習面では学力分布が多極化していたり、授業の多くが予定調和的で話し合いが深まっていないこと、生徒指導面では不登校の増加や自発性を伸ばす自治活動が少ないことなどの課題がみられる。 今後も学校への働きかけを一層強めるとともに、教員から計画への参画を促したり提案を求めたりするなど、主体的に改善しようとする意欲を高める工夫が必要である。	

(2) 生涯学習

理念	重点	到達目標と結果（○×）	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとづくり	豊かで楽しい学習機会の保障	○ 参加者の減少に歯止めがかかる。 ※ 実施した講座や教室については若干参加者が増加している。 × 各種事業の満足度が向上する。 ※ 満足度調査が未実施。	《高齢者対象事業、移動公民館、いきいき町民セミナー、放課後子ども教室等の実施》 いかわ夕学の会、町民とともに学ぶふるさと講座は、高齢者を含め幅広い年代に向けた講座として実施している。今年度は従来型の講座だけでなく音楽鑑賞会も行った。両講座合わせて3回行い、平均して114名の参加があり、昨年度よりは若干増加した。 また、放課後子ども教室は毎月実施し、英語、算数、ニューススポーツ体験、工作教室を行った。参加平均人数は昨年度より2名増え、12人となった。 《満足度調査の実施及び聞き取りによる事業改善》 満足度調査は実施していないが、各種事業の際に聞き取りをして意見収集に努めた。合わせて参加者のニーズについても聞き取りをしている。 また、コロナ禍により中止が続いた事業については、事前協議の回数を増やす等の対応をし、事業の見直しを図った。 なお、子ども会育成連絡協議会の夏まつりについては、協議を経て、育成会会員が事業に対し今まで以上に携わる形で内容を見直し実施している。同時に放課後子ども教室を開催し、事業に参加しやすい環境を整え、幼児・児童・生徒合わせて98名が参加するなど合同で事業を行ったことで、育成会のみならず、放課後子ども教室においても本事業についての意見を聞くことができ、広く意見収集することができた。 《講座の名称や内容等の検討と改善》 人口減少や高齢化などにより、対象世代を絞った講座の開催が難しい状況にあるため、既存の講座に幅広い年代が参加できるよう改善をしている。 また、10月に社会教育委員の会議兼公民館運営審議会を開催。社会教育事業や公民館運営についての提言をもらい、事業内容等の検討や改善につなげた。	B
	地域の教育力向上への支援 教育力向上への支援	○公民館図書室の貸し出し冊数が増加する。 ※1月末現在で貸し出し冊数が去年同期を119冊上回った。 × 家庭教育支援の事業が充実する。 ※ 事業は昨年と同様で1回の講座しか開くことができなかった。	《読書活動や家庭教育支援での、学校や子どもセンターとの連携強化》 家庭教育支援事業では、就学時健診時に保護者を対象に家庭教育講座を実施した。 新規事業として、義務教育学校の学習発表会の際に「いかわりサイクルBOOKフェア」を開催。事前に町民ボランティアを募集して、旧小学校と公民館図書室の廃棄図書を整理し、絵本、雑誌、一般書など約350冊を用意した。当日の運営も町民ボランティアの方々が行い、児童・生徒・保護者など96人が参加し、親子での参加も多く見られた。 《子ども教室の多様な講座や取り組みへの支援》 地域学校協働活動推進員が中心となり、算数や英語、ニューススポーツ体験や工作など、子どもが楽しく学べるように工夫した教室を開催。打ち合わせを重ね、推進員の考えが活動に反映されるよう支援を継続している。 《図書室の貸し出し数等と広報や展示の工夫》 1月末現在の公民館図書室貸出冊数は1,624冊、利用者数は449名で、昨年度に比べて冊数は119冊の増、利用者数は54名の減である。 町広報やHPを活用した新刊図書貸出の周知や、県立図書館の本の貸出サービスなどで貸出数の増加に努めた。	
	課題と今後の方向		町民体育大会や盆踊り大会の再開や放課後子ども教室、新たに廃棄本フェアを実施するなど、コロナ禍を脱して諸行事を取り戻すことのできた一年だった。一方で町民ニーズの把握や満足度の測定が未実施であることが多いことや、運営がいまだに教育委員会の手を離れないことなどの課題があり、引き続き取り組んでいく必要がある。	

(3) 芸術文化の振興と文化財保護

理念	重点	到達目標と結果（○×）	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとづくり	郷土の歴史・文化の保護・継承・活用	○ 文化財継承の課題解決について方向性を出す。 ※ 審議会から今後の方向性について答申をもらった。	《学校と連携した伝統文化の継承と町民への啓発》 義務教育学校3年生が「井川みらい学」で願人踊りと民謡手踊りを体験し、PTA授業参観で発表した。学校での練習は保存会の方々の協力を得てより本格的な体験活動となっている。 また今年度は、同じく「井川みらい学」において盆踊りを体験、対象は3年生と6年生で、PTA授業参観で発表を行っている。地域学校協働活動推進員、婦人会、八大保櫓の会の方々の協力により実施できた。 《審議会等での幅広い意見聴取と協議》 8月、喫緊の課題となっている歴史民俗資料館の在り方について審議会に諮問、11月・1月の協議を経て2月に答申を受けた。今後の方向性としては資料の保存収集整理に力点を置き、また専門家からの助言を得て進めることとなった。合わせて町への要望等を出してもらい、取り組むべき課題をはっきりさせた。	A
	芸術文化の振興	○ 芸術文化団体・サークルへの活動支援を充実させる。 ※ 例年通りの助成を行い、ほぼコロナ前の状況に戻った。	《芸術文化振興をふまえた公民館の展示等の改善》 補助、活動支援についてはほぼコロナ前と同様となっている。今年度は男鹿・潟上・南秋地区芸術文化振興大会の当番町であったことからその支援も行った。 新たな試みとして、例年行っている「町民作品展」でお茶会を開催し、好評を博している。また「町民ギャラリー」において新たな活動を紹介したりと、マンネリ化しないように努めた。	
課題と今後の方向			学校での伝統文化の継承については、願人踊や盆踊り指導が定着し大きな成果をあげている。歴史民俗資料館の方向性についても審議会の答申を得て、それを粛々と実施していく必要がある。 また芸術文化振興についても地区の大会成功などの成果があった。今後も団体支援を充実させ活動を支援していきたい。	

(4) 生涯スポーツ

理念	重点	到達目標と結果（○×）	具体的取り組み《》と成果	評価
あたたかな心 夢ときめく ひとづくり	生涯スポーツの振興	× 各種大会やイベントの満足度が向上する。 ※ 満足度調査を実施せず。 ○ 運営の見直しで大会が活性化する。 ※ 各種球技大会の運営は各サークルの大きな協力のもとに行われるようになった。	《各種大会、チャレンジデー、町民自然ウォーキング、井川マラソンの実施》 近年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた町民体育大会を4年振りに開催した。各町内で人口減少・高齢化が進行しているため、今大会はレクリエーション競技を増やし、どの年代でも楽しめるよう企画した。また競技は少ないが、町内会の参加に関係なく個人で参加できるようにした。 チャレンジデーについては今年度はオープン参加に変更し、全国区分では銀賞となるなど一定数の参加は得られた。 町民自然ウォーキングについては、町民の要望に応える形で実施し、大変好評であった。 各種大会、井川マラソンについては事前に関連団体との協議を増やし、大会への関わりを強めることで、より運営への協力を得られることができた。 《満足度調査の実施及び聞き取りによる事業改善》 各種大会やイベントに対する満足度調査は行わなかったが、大会中や大会終了後等、参加者への聞き取りを行い、意見収集に努めた。 各種大会については、関連団体との協議で区分等の見直しを図り、現状に即した大会運営を行った。	A
	課題と今後の方向		各種大会や井川マラソン、自然ウォーキングなどもコロナ禍前と同様に実施できた。一方でチャレンジデーやふるさと秋田ランなどは参加者数の減少で今年限りとなり、町でも参加者の確保などに大変難儀した経緯がある。 来年度は町民のニーズを満足度調査などでしっかりと把握し、改善の糸口をつかみたい。	

「教育委員会における事務の管理・執行状況」の外部評価

(1) 学校教育

① 学力の向上

教育委員会の具体的取り組みはいずれも高く評価できるが、内部評価の「B」は説明が必要である。到達目標の結果が達成されていない「×」印が付いて、内部評価が「B」というのは整合性がない。

目標が学校現場で達成されていないということは、日常的に探究学習が進められていない、一律・一斉の授業が行われているということか。指導する教員の意識革命を行いながら、学習指導要領で目指す「探究的な学習」を強く推し進めることが肝要である。思い切ったカリキュラムを編成し、井川みらい学を一層充実させることも一つの方策であろう。

② 社会性の伸長

内部評価は「B」とあるが、井川の子供たちは集団での責任感や協調性・コミュニケーション能力・道徳性など、よく身に付いている印象がある。高い評価でも良いのではないか。また取り組みの「社会性調査の経年変化」の検証は有効であり、高く評価できる。

③ 豊かな心、健康な体

不登校の対応はとても重要である。教育委員会および学校の不断の取り組みは評価したい。なお、不登校の増加は一斉指導の弊害ともいわれる。いま検討中の公設学習塾は、個別の指導ができるので不登校対策としても有効である。

④ 地域とともにある学校

具体的な取り組みは適切である。また、「教育委員会だより」「学校報」の毎月の全戸配布は高く評価したい。今後も務教育学校の良さを生かした教育内容やその特徴を町民に浸透させてほしい。

(2) 生涯学習1

① 学習機会の保障

取り組みが多岐にわたり、それぞれ成果が見られる。

② 地域の教育力向上への支援

公民館図書室の事業は高く評価できる。貸出冊数が増加しているが、新規図書の紹介、展示方法の工夫、移動図書などの成果であろう。また、公民館と学校の定期的な図書の交換など試行したらどうだろうか。

(3) 芸術文化の振興と文化財保護

① 郷土の歴史・文化の保護・継承・活用

「到達目標と結果（○×）」の吟味が必要である。ここの重点に対して、「方向性を出す」という到達目標は、事業としてふさわしいとはいえない。また、今、地域の文化財の散逸を防止することは喫緊の課題である。次年度は答申に基づいた速やかな具体化が急がれる。

② 芸術文化の振興

取り組みは評価できる。芸術文化の各団体グループへの支援は、今後も続けてほしい。併せて町の広報に各団体の活動紹介ができるよう働きかけてほしい。

(4)生涯スポーツ

取り組みは評価できる。今後は町民の希望にそった新しい事業をおこすなど、事業の取捨選択が必要ではないか。教委が丸抱えするのではなく、体協に委ねる事業があってもよい。

(外部評価委員 幡宮明貞)